

# みくびびだより

平成13年6月20日

御首神社社務所



## 御挨拶

謹啓 当神社の御神域も深い緑に包まれて新しい息吹きが感じられるようになりましたが、皆様方には愈々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

去る五月中旬皇太子妃殿下に於かれましては、目出度くも「御懐妊」と、宮内庁より正式発表がありました。皇太子、同妃殿下は申し上げるまでもなく、天皇皇后両陛下のお喜びもいかばかりかと御拝察致します。皇太子妃殿下におかれましては御身ご自愛されまして、無事ご出産あそばされますようお願い申し上げます。

さて、先般「新しい歴史教科書をつくる会」主導でつくられた、平成十四年度版の中学歴史教科書の検定が合格となった訳ですが、非公開で進められてきたはずの教科書検定に対し、歴史事実を歪曲しているなどとして中国や韓国がその内容に関して、「特定教科書（歴史）を不合格にせよ」と内政干渉とも言える圧力をかけていたという漏洩の事実が発覚いたしました。このような外圧に屈することなく、わが国の真実の歴史観を編纂された関係者のご協力に敬意を表するものであります。

我が国には古事記・日本書紀の神話にはじまり、日出る國として、万世一系の皇室を中心としての誇りある歴史があります我々は次代を担う子供達に、我が国の悠久の歴史を踏まえ、道義を重んじ恥を知る高貴な精神を求め、立派な人間に育って欲しいと願うものです。そのためにも今後我が国で採用する教科書は、未来を担う子供たちが、日本の将来に希望を持つことができるものでなければならず、又教科書づくりが不当な外圧に左右されず、正しく進められるよう念願いたしております。最後になりましたが、御首の大神様の御神徳を漏れなく拝受され、愈々の御健勝と御多幸を祈念致します、ご挨拶とさせていただきます。

## 『若者と信仰』

若い人たちに信仰が敬遠されがちなのは、信仰をするとあれをしてはいけない、これをしてはいけないなどと拘束され、精神的にも窮屈になるという心配があるからです。特に現代の若者達は生まれたときから自由な環境の中で育っているのです、他人からとやかく干渉されることを非常に嫌います。そこへもってきて大人も子供を教育する自信を失って、なかば諦め気味で放任状態が多いから、若い人達は家庭でも学校でも会社でも、厳しい訓練やしつけを受けている人は少ないでしょう。言い替えば社会の荒波に鍛えられることなく、すくすくと伸びた木のように、順調な時は良いが逆境にさらされると「ぼつきり」と折れてしまう。

しつけというものは漢字で書くと「躰」で身を美しくするという意味があります。礼儀正しく言葉遣いが適切で心にしまりがあり他人への心配りがよ



くできています。これは一朝一夕に出来上がるものではなく、長い年月をかけて親や他人から教えられ、自分自身もつとめて、徐々に身につけてゆくものです。

ところが今の若い人は、自分の自由や自分の個性を尊重することは得意ですが、他人の自由や個性を十分に尊重するというところまではいかないので、自分中心の考えに傾き易いのです。自分の欲望を満たすことには熱心だが、それを制御することの不得手な人が多い。こんな姿を、今マスコミでは「自己虫」(自己中心と掛けている)というシステムで皮肉っています。

多くの宗教は、人間の持っている欲望は、どちらかという人間が不幸になる原因であると解釈しています。そして欲望を満たすというところに幸福があるのではなく、反対に欲望を制御してゆく未来に、本当の自由と幸福が約束されると説いています。

ここに一塊の肉片があるとします。そこへお腹を空かした二匹の犬がやってきたとすると、犬はうなり声を出して吠え、喧嘩を始めるのが普通で、これが一般動物の自然の生態であります。人間でも子供の世界では、これと似たようなことが起こるでしょう。自分の欲望の赴くままに行動していると、このようになり易いものです。これは人間が動物的な状態に逆戻りした姿であります。

これに反して一つのパンをとってみても、親と子であれば親は必ず子供に与え、自分は空腹をこらえる。夫婦であれば二つに分けて食べるでしょう。同じ一つのパンでも、ある場合は喧嘩の種となりある場合は喜びの種となります。人間の心の持ち方によって大きな相違となって現れてくるのです。

宗教が欲望に対して厳しい態度をとるのは、理由のないことではありません。人間に対し無制限に欲望を肯定すると、そこには悪がはびこり、お互いの争いが激しくなって、その結果は不幸の泥沼となるばかりです。

そこで欲望を制限したり禁止したりすることが必要となってくるのですが、人間は他人からとやかく言われても素直に聞く人は少な

いでしよう。ですから神さまの權威によって欲望を制限するということになります。これを戒律と云って一つは他律的なもので、人に迷惑をかけてはいけなとか、他人の物を盗ってはいけなとか親孝行をしないとかいうもので、もう一つの面は他から干渉されないで自発的に規律を守ろうとする心です。

戒律というものは信仰上大切であっても、あまり喜ばれないのが普通です。学校の教師でも、口やかましく厳しい教師ほどけむたがられます。家庭でも父親はよく怒るから、どうしても人気がありません。けれども子供の将来を考えると、怠けたり間違った行動に出た場合、びしびし叱りつけたりする人こそ、子供にとってはよい人なのです。スポーツ選手でも、いつも不節制ですぎ放題に食べたり眠ったり遊んだりしては、優れたスポーツマンとして成功する筈がありません。

人間は、神さまから見るといたずら好きな子供のようなものである。放っておけば危険なことも知らないで池のほとりへ行ったり、夕暮れだと云うのに遊びに夢中になっている。危険な池のほとりとは、悪に近づくことであり、夕暮れまで遊んでいる・・・とは、死が近づいているのに物欲や地位欲を求めて、神さまのことなどは考えていないことであります。

人間の気ままな心は、どうしてもだらしのない人間をつくることになり。若者に無軌道な犯罪が多いのは、小さい時から厳しい躾や訓練を受けていないので、自分の欲望にブレーキがかからないからです。昔の人は少しぐらい腹がたつてもじつと我慢をする人が多かったです。現代の若者はちよつとしたことでもすぐ頭にきて、前後の見境なく無謀なことをやらかす人が多い。人間が精神面に於いて動物的に退化しているのです。これは現代社会での宗教教育が欠けているということが原因ではないでしょうか。

私達は、常日頃進んで神さまの規律に従い、信仰生活を通して人間として本当の意味での自由と、永遠の幸福を信じて日暮らしをしたいものです。

禰宜 上松 雅之

## ちよつと一言

こんにちは、社務所より一言ご案内申し上げます。御首神社の参道沿いに奉納されております常夜灯についてご説明申し上げます。

常夜灯には二つの意味があり、一つは現代の交通標識的な役目を担うものと、神社仏閣の、信仰を対象とした献燈の意味での常夜灯に分けられます。神社仏閣の常夜灯は、神佛への献燈が主な目的で奉納者が各々ゆかりある場所に建てられた燈籠のことで、我が国には仏教建築と同時に輸入されたものと思われ、石製・銅製・木製又、近年ではアルミ製もあります。現在では石燈籠が大半で、戸外に左右二基安置されることが多く、現代的な素材に御影石があります。

当神社の参道沿いに奉納されております常夜灯は、形は小さまざますが、全て春日燈籠とよばれるものです。又、彫刻文字を見ますと、江戸期は「御頭大明神」明治期には「御首大明神」と刻まれており、歴史の変遷を感じることができます。

又、境内に祀られていた末廣稲荷神社の参道には、御鎮座五十年記念で新しく建て替えられました。朱塗りでアルミ製の春日燈籠が参拝者の足元を照らしております。

権禰宜

谷口哲也



祭事報告

- ▼年越大祓 十二月三十日午後三時
- ▼元旦祭 一月一日午前零時
- ▼左義長 一月十五日午前十時
- ▼浄火祭 二月三日午前十時

祭典は、宮司以下祭員四名、氏子区域内の今年厄年に当たる四名の厄男及び氏子総代のご奉仕により、厳粛に執り行われました。浄火祭では、ご祈禱を受けられた方々が御神前に献られた金幣串、そして返納された紅白串また祈願奉納された帽子・祈願絵馬に皆様の心願成就を厄男が心を込めて祈念致し、忌み火で以てお焚き上げをいたしました。



- ▼祈年祭 二月十一日午後三時
- ▼鉾山神社例祭 三月十七日午後三時
- ▼例大祭 四月二一日午後三時
- ▼今年例大祭は 例大祭は 穏やかな日差しの中、なかで桜の花も満開で祭りに花を添え、子供御輿の御巡幸・打ち囃子の奉納・演芸と、境内は祭り一色に染まり、定刻午後三時献幣使をお迎えし、宮司以下祭員氏子総代及び多数の崇敬者により、恙無く例大祭を斎行致しました。



- ▼南宮神社例祭 五月四日午後三時
- ▼お田植え祭 六月六日午後三時
- ▼農休み祭 六月十日午後三時

※御参拝の皆様へ

この度境内の美化及び尊厳保持の為『灰皿讚美箱』を全面撤去(祭りの日は除く)致しました。御参拝の皆様にはご不便をお掛け致しますが、ご理解の程お願い申し上げます。

権禰宜 大野 弘樹

厄除開運祈禱

男子 大厄 二十五歳・四十二歳  
 女子 大厄 十九歳・三十三歳  
 古来より「大厄は諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び、何かとままならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。御祈禱を受けられ、毎日を平穩に過ごしましょう。

平成13年		厄年に当る生れ年		
		前厄	本厄	後厄
男子	42歳	昭和36年	昭和35年	昭和34年
	25歳	昭和53年	昭和52年	昭和51年
女子	33歳	昭和45年	昭和44年	昭和43年
	19歳	昭和59年	昭和58年	昭和57年

## 七五三参り

七五三参りは、成人式や結婚式などと同じく人生儀礼の一つで起源は古く、然もそれは服装の整備されぬ太古の時代から行われていて、服装の規定もありませんでしたが、支那の元服の思想に影響されて、これを服飾で表示するように変化してまいりました。

即ち男女三歳を髪置、男児五歳を袴著、女児七歳を帯解といい、これ等の年齢に相当する男女児が盛装して氏神様へ参拝し、神様のご加護によりこれまでの成長を感謝し、併せて今後益々健康で立派な家庭人として、更に社会人としての教養を高めることを御神前で誓うのであります。

大昔にはこの儀式も日取が一定していませんでしたが、徳川將軍綱吉の子「徳松君」が十一月十五日に七五三のお祝をしたのが例となり、現在に伝えられてまいりました。最近では十一月中に参拝されるようになり、特に十一月十五日前後の土・日曜日に多く参拝されるようになりました。

現代では子供達や親・祖父母等が何かと気忙しくなり、家族一緒に参拝する事が難かしくなりましたが、七五三を迎えられたお子様の為にもご家族揃って御神前に御報告し、お祝いをして頂きたいものであります。

七五三参りは一般的に数え年で参拝されませんが、最近では満年齢での参拝も増えてまい

りました。

又、ご家庭の事情で、この年廻りに御祈禱をされていない方や、過去に七五三の御祈禱が受けられなかったお子様でも、ご遠慮無く社務所受付までお申し出いただければ御祈禱させていただきます。

尚、当社では、七五三の御祈禱を十一月一日～三十日まで午前九時より午後四時半迄受付いたしておりますので、是非ご参拝下さいますようお願い申し上げます。

権禰宜 高田 豊彦



## 崇敬会入会のご案内

## 入会の方法

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所へお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。お申し込みされますと、神前にて入会報告祭が執り行われ、会員証・認定状等が交付されます。

## 会費 (年会費)

- 一、個人会員 三千円以上お志し
- 一、家族会員 五千円以上お志し
- 一、特別会員 一万円以上お志し
- 一、法人会員 二万円以上お志し
- 一、名誉会員 三万円以上お志し

## 会員の特典 (抜粋)

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈禱神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げます、ご祈禱致します。
- 一、参拝の折、会員証を御呈示になられますと、会員の方は昇殿参拝が許されます。

## 祭事案内

- ▼西宮神社例祭 七月十七日午後三時
- ▼末廣稲荷神社例祭 八月 五日午後三時
- ▼夏越大祓 八月五日午後三時半

大祓は、日常生活に於いて知らず知らず受け犯している罪や穢れを祓い清めて、災厄を逃れ幸福を得むとするもので、当神社では皆様方が半年間に身に受けた罪・穢・災を祓い清めていただくため、夏越大祓を厳粛に斎行致します。

大祓式に引き続き、お祓い所役を先頭に宮司以下祭員・総代・一般参列者の順に茅の輪



を左右とくぐり、最後に参道をまっすぐ拝殿前まで進み、二礼二拍手一礼にて拝礼して頂き、神事を終了いたします。

除穢招福・健康で暑い夏を無事に過ごして頂く為にも、是非夏越大祓式のご参列をお勧め致します。

「人形」（ひとがた）は、拝殿前と社務所に用意いたしておりますので、ご自由にお持ち帰り下さい。

尚、当日は混み合いますが平常通り午前九時より午後五時まで、病気平癒を始め諸祈願の御祈禱を執り行っております。

▼長寿祈願祭 九月十五日午後四時

▼神明神社例祭 十月十七日午後三時

▼七五三参り 十一月一日〜三十日

七五三のお参りは、日本古来の人生儀礼の一つで、子供の成長過程で三歳・五歳・七歳の節目に、御神前にて無事にこの年を迎えられた事を御報告申し上げ、大神様の御守護を戴き、この先益々健やかな成長を願う神事であります。

毎年十五日以前の日曜日には、両親や祖母に手を引かれ、晴れ着に身を包んだ子供達が多数訪れ、ぬいぐるみと遊んだりコリントゲームをする子供で賑わいます。

▼崇敬会大祭 十一月 三日午後二時

崇敬会大祭は、御首の大神様に無病息災や家内安全等の御守護を戴く、崇敬会会員の一年に一度の大祭です。

大祭では御出席いただいた皆様のお名前を



一人一人御神前にご報告申し上げ、金幣串を奉っていただきます。

尚、会員にはいろいろ特典がございますので、詳細は案内書を御覧いただき、ご近所ご友人の皆様お誘い合わせの上、御入会頂きませう御案内申し上げます。

▼新嘗祭 十一月二十三日午後三時

権禰宜 馬場 典之

## 御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の一  
TEL(〇五八四)九一一三七〇〇

ホームページ [www.mikubi.or.jp](http://www.mikubi.or.jp)

Eメール [syannusyo@mikubi.or.jp](mailto:syannusyo@mikubi.or.jp)